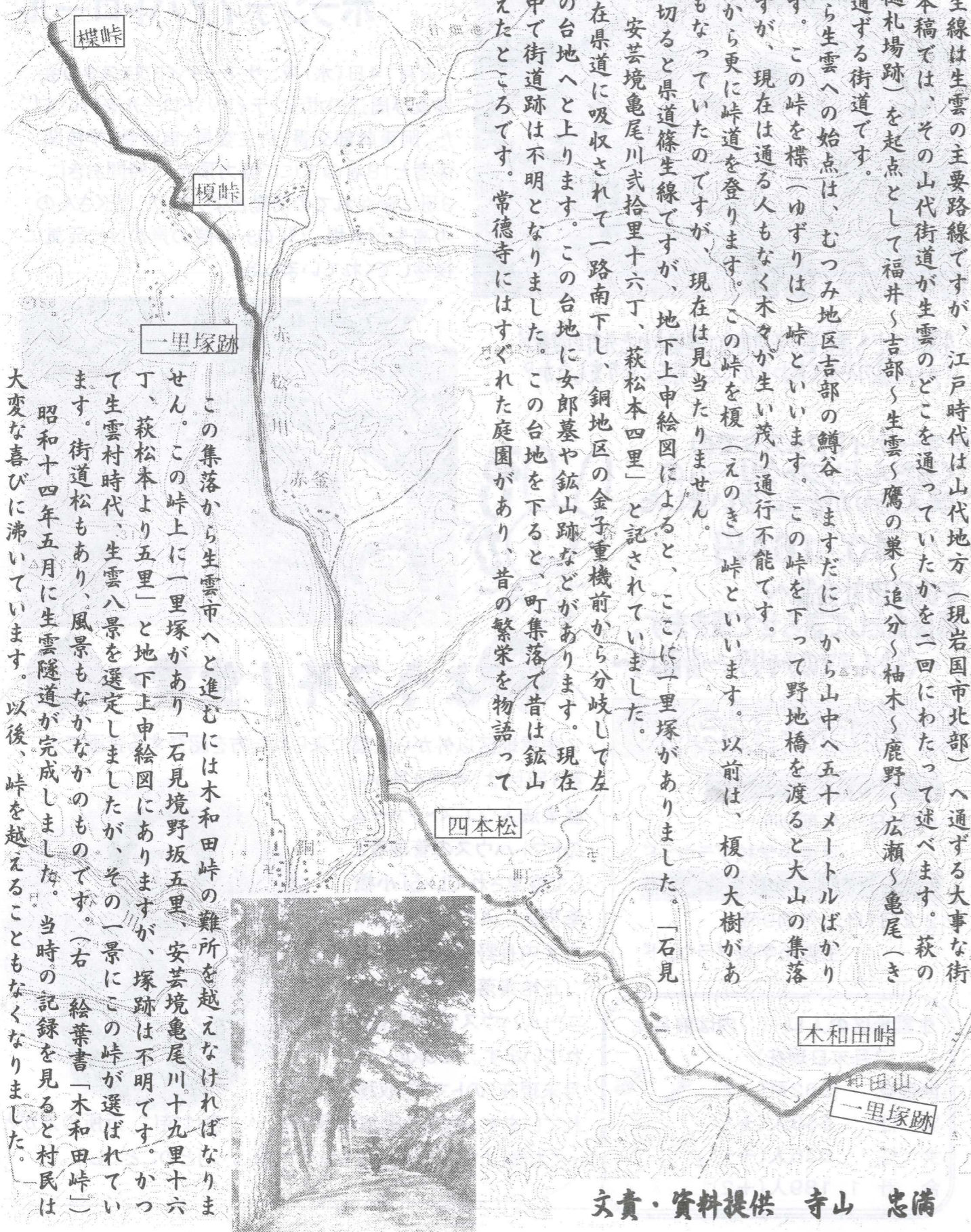


# 山代街道を往く 第1回 標峠から木和田峠へ



県道萩篠生線は生雲の主要路線ですが、江戸時代は山代地方（現岩国市北部）へ通ずる大事な街道でした。本稿では、その山代街道が生雲のどこを通過していたかを二回にわたって述べます。萩の辻（唐樋札場跡）を起点として福井く吉部く生雲く鷹の巣く追分く柚木く鹿野く広瀬く亀尾（きび）川へと通ずる街道です。

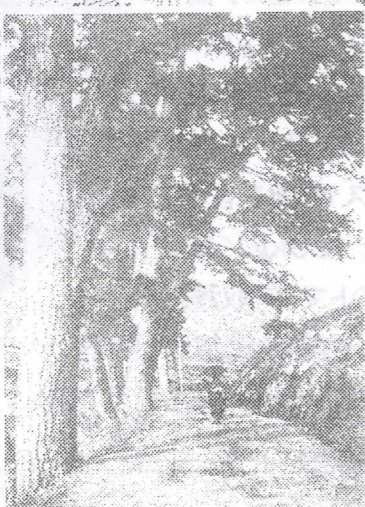
萩方面から生雲への始点は、むつみ地区吉部の鱒谷（ますだに）から山中へ五十メートルばかり登りつめます。この峠を標（ゆずりは）峠といいます。この峠を下って野地橋を渡ると大山の集落に出るのですが、現在は通る人もなく木々が生い茂り通行不能です。

大山集落から更に峠道を登ります。この峠を榎（えのき）峠といいます。以前は、榎の大樹があり、峠名ともなっていたのですが、現在は見当たりません。

峠を登り切ると県道萩生線ですが、地下上申絵図によると、ここは一里塚がありました。「石見境野坂六里、安芸境亀尾川武拾里十六丁、萩本四里」と記されていました。

街道は現在県道に吸収されて一路南下し、銅地区の金子重機前から分岐して左折し四本松の台地へと上ります。この台地に女郎墓や鉦山跡などがあります。現在は道路新設中で街道跡は不明となりました。この台地を下ると、町集落で昔は鉦山町として栄えたところですが、常徳寺にはすぐれた庭園があり、昔の繁栄を物語っています。

この集落から生雲市へと進むには木和田峠の難所を越えなければなりません。この峠上に一里塚があり「石見境野坂五里、安芸境亀尾川十九里十六丁、萩本より五里」と地下上申絵図にありますが、塚跡は不明です。かつて生雲村時代、生雲八景を選定しましたが、その一景にこの峠が選ばれています。街道松もあり、風景もなかなかのものですが、（右 絵葉書「木和田峠」）昭和十四年五月に生雲隧道が完成しました。当時の記録を見ると村民は大変な喜びに沸いています。以後、峠を越えることもなくなりまし



文責・資料提供 寺山 忠満

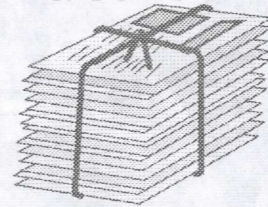
# ゴミステーション巡回～生雲環境衛生自治会～

8月18日(日) 生雲環境衛生自治会の役員が、各集落のゴミステーションの巡回を行いました。29集落のゴミステーションの中で、今回は相上集落を取材に行きました。

公会堂の前には、分別用のかごが出され資源ごみを入れて行きます。建物内には、新聞、雑誌、紙ごみなどが綺麗に分別されて保管されていました。分別がわからないものは、調べたり相談したりして、確認されていました。



## 新聞紙



四つ折り・紙ひもで

今回の巡回では、新聞紙が四つ折りでない・ペットボトルが洗っていない・ペットボトルのキャップが外されていないの3点の報告がありました。各集落でもう一度確認をお願いします。



## 生雲小学校がペットボトルキャップを集めています！

ペットボトルキャップを約800個で、ポリオワクチンの1人分、1人の子供の命が救えます。

ペットボトルキャップ約430個を焼却処分すると3150gの二酸化炭素が発生します。分けてリサイクルして価値ある材料にしましょう。



生雲分館入り口にあります。

## ペットボトル



キャップは外して

きれいに洗って